東　俣　野　３月号
東俣野小学校　学校だより　　平成３０年３月１日

思いは伝えてこそ分かり合える

校　長　　村田 幹男

冬季平昌オリンピックが閉幕しました。今回のオリンピックでも多くの感動場面がありました。競技を終えた選手たちのインタビューでは、目標に向かって共に切磋琢磨してきた仲間やライバルへの敬意と、これまで支えてくれた周りの人たちへの感謝の気持ちを、誰もが口にしていました。人ががんばることができるのは、やはり、共に歩む仲間と、自分を支えてくれる人がそばにいてくれるからなのでしょう。

先日、４年生は、保護者の皆さんを招待して「２分の１成人式」を行いました。２０才の成人式の半分、１０才を迎えるこの時期をひとつの節目ととらえて、将来への思いや家族への感謝の気持ちを紹介したり、仲間と協力して成長している姿を発表したりするといった内容でした。式終了後には、サプライズとして、保護者の皆さんからわが子に宛てた手紙もあり、受け取った子どもたちは嬉しそうに読んでいたそうです。翌日、多くの保護者の方から嬉しい感想が集まりました。いくつか紹介いたします。

・全員の堂々と自信あふれる姿、とても嬉しく思いました。家庭のわが子と違った一面を見ることができ、少しずつ大人になっていくのかなと感じました。
・みんなの前で一人一人発表することはとても緊張することですが、それぞれが自分の言葉で感謝の気持ちとこれからの自分について言えていたことに成長をとても感じました。
・とても純粋な気持ちで家族に伝えている姿は、私たちの方が改めて成長を感じましたし、子育てについて考えさせられ、感動しました。
・決意表明の時、感極まって涙してしまっている友だちに対しても、決してからかったりすることなく、自然と応援の言葉がかかる場面は、心が温まりました。

家族間では、改まって相手に感謝の言葉を口にすることはあまりないと思います。ふだん、子どもは親にしてもらっていることは当たり前と思ってしまい、甘えてばかりの時が多いでしょうし、親はわが子に対しては、命令や指示ばかりの時が多くなってしまいがちです。その状態でコミュニケーションが少なくなると「すれちがい」が生じかねません。学校での子どもたち同士の関係も同じです。お互いに思いを直接伝えていればおこらなかったであろう「勘違いによるトラブル」があるのです。思いは伝えてこそ分かり合えます。皆さんも、子どもにとっての、あるいは親にとっての節目の機会ととらえた時には、家族の絆を深められるようなコミュニケーションの場をぜひつくってみてください。